

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 23 日現在

機関番号：34315

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06735

研究課題名(和文) 明治期の極東における和刻本漢籍の流通

研究課題名(英文) Japan Reprinted Chinese Books (Wakokubon) in the Far East

研究代表者

李 増先 (Zengxian, Li)

立命館大学・衣笠総合研究機構・研究員

研究者番号：90755498

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は和刻本漢籍の受容について明白にすることを目的とする。具体的にはケンブリッジ大学図書館のロックハートコレクションを研究対象とし、それに含まれる和刻本を取り上げ、詳細な書誌等を付与し、同館公式リポジトリであるケンブリッジデジタルライブラリーで公開した。原蔵者のロックハート卿(1858-1937)はイギリス出身の外交官であった。1880～1921年の間に香港・威海衛等の英領植民地の管理を任された人物である。在任中の40年間は数多くの美術品を集める一方で約1200点を数える蔵書も蓄えた。彼の没後に蔵書は解体され、遺族等によって売却されたが、同館が二度に渡ってそれを買収した。

研究成果の概要(英文)：This research focus on a special collection of Japan reprinted Chinese books (Wakokubon) in the Cambridge University Library, the Lockhart collection, aimed to reveal the origin of the collection and publish the latest research outcomes on Cambridge Digital Library. The Lockhart Collection in Cambridge was a part of the library from the late Sir James Stewart Lockhart (1858-1937), who was a British administrator served in China. Sir Lockhart was in China from 1880 to 1921, he was the Registrar-General and the Colonial Secretary of Hong Kong, later became the first civil Commissioner of Weihaiwei. During his 40 years in China Sir Lockhart built a huge collection of Chinese paintings, but the same time he also built a library including 1200 titles of books, which eventually became the Cambridge Lockhart Collection. In 1937, his library was dispersed right after his death, it was the Cambridge University Library purchased the collection twice in the year 1937 and 1948.

研究分野：和漢比較文化、和漢比較文学、和刻本漢籍、東アジアの文化交流

キーワード：ロックハートコレクション ジェームス・スチュワード=ロックハート ケンブリッジ大学図書館 威海衛 香港 和刻本漢籍 在外日本古典籍 幕末明治期

1. 研究開始当初の背景

本研究の着想に至ったきっかけは研究遂行上に必要な文献をケンブリッジ大学図書館に求めたことに由来する。日本の文献・絵画などの文化財は幕末明治期に海外に大量に流出したことはよく知られたことであるが、具体的にはどのようなものが流出し、海外ではどのように享受されてきたかは研究が至っていないところも多い。

その中で本研究が注目したのは同館のロックハートコレクションである。『ケンブリッジ大学所蔵和漢古書総合目録』によると研究対象のロックハートコレクションは1937年にもたらされたジェームス・スチュワード＝ロックハート卿 (Sir James Stewart Lockhart, 1858-1937, 以下ロックハート) の旧蔵書である。興味深いことにその「殆どは十七世紀から十九世紀に及ぶ和刻本漢籍類」である。

周知のように漢籍とは広く漢字で書かれた書物のことである。旧時、同じ「漢字文化圏」の下に置かれた中国・日本・韓国・ベトナム (安南) にも需要があり、流通していたことがよく知られる。かつて日本で使用されていた漢籍の中で宋・元の古板本や古抄本を元に翻刻 (覆刻) し、注釈・返り点・送り仮名等を付して出版したものを和刻本漢籍と呼ぶ。無論、日本で出版された書物は日本人が読むことを前提にしており、そのため、漢文に返り点や送り仮名を付したのも当然である。

一方ロックハートの経歴に目を向けると1880年から1921年までに中国に英国の外交官として赴任して以来、香港では登録総監 (Registrar-General)・総督秘書 (Colonial Secretary) を歴任し、のちに威海衛 (Weihaiwei) の総監 (Commissioner) に任ぜられた。

このような経歴をもつロックハートの旧蔵書に和刻本漢籍が含まれていることは旧時の中国大陸に和刻本が流通していたことを意味する。しかし、それはどれほど流通しているのか、また、どのようにして彼のコレクションの一部となったかについて言及した先行研究は確認できなかった。

そこで本研究はロックハートコレクションのこのような特異さに惹かれ、研究上の空白に注目し、本研究の着想に至った。

<参考文献>

林望、ピーター・コーニッキー共編、『ケンブリッジ大学所蔵和漢古書総合目録』、ケンブリッジ大学出版会、1991年、48-49

2. 研究の目的

本研究はケンブリッジ大学図書館蔵ロックハートコレクションを研究対象とし、それに含まれる和刻本漢籍を取り上げ、幕末明治期の極東、特に香港・威海衛における和刻本漢籍の流通について明らかにすることを目

的とする。具体的にはケンブリッジ大学図書館のロックハートコレクションに注目し、その成立の経緯を明らかにする。ロックハートは長年にわたって英領香港・威海衛に外交官として滞在し、生涯をその経営に尽瘁した人物である。彼の旧蔵書は没後にその遺産の管財人を通じてケンブリッジ大学図書館に買収された。同館に買収されたコレクションに和刻本漢籍が含まれていることは注目すべき点である。そこで、本研究はそのコレクションの成立経緯を解明することによって、海外における和刻本漢籍の流通は勿論、当時の東アジアにおける和刻本漢籍の評価にもつながると見込まれる。

現在国内外における和刻本漢籍についての研究はあるものの、いずれも書誌学や漢籍受容等と言った従来の分野にとらわれたものである。本研究の疑問に答えを提示するような先行研究はまだ見られない。そのため、本研究は日本文学・中国文学・英国近代史のいくつかの語圏や分野を横断する新たな試みと言えよう。それに、本研究はケンブリッジ大学図書館蔵ロックハートコレクションの来歴・成立経緯の解明を目指し、幕末明治期の極東に和刻本漢籍がどの程度流通していたかもある程度予見でき、海外における和刻本の享受を垣間見ることができる。また、コレクションとはその人が獲得した知識の集合でもあり、本研究は当時の東アジアにおける「知」の流動経路についても概観できる。

本研究の目的に照らし、研究期間中は主として以下の5点を中心に研究を遂行する。

- (1) 研究対象の特定&デジタルアーカイブ
- (2) ロックハート没後コレクションの行方
- (3) 中国大陸における同版書物の所蔵状況
- (4) 同版書物の日本での出版状況
- (5) 東アジアにおける「知」の流動の概観

すなわち、前出目録の中からロックハート原蔵書を抽出し、コレクションの全貌を浮かび上がらせると同時にデジタルアーカイブを実施した。その次、彼の没後にコレクションがどのような経緯を辿り、現在の形となったかを明らかにし、同版の書物が中国大陸ではどの程度あるのかを各大学や図書館の目録・データベースを適宜に用いて確認する。そして、同版書物の日本での出版状況を確認し、当時の人的・物的流動を総合的に推考した上で、東アジアにおける「知」の流動に関するモデルを概観し、従来の学会発表や論文投稿に加え、研究成果のウェブ上での公開も心掛けてきた。

<参考文献>

Shiona Airlie, *Thistle and Bamboo: the Life and Time of Sir James Stewart Lockhart*, Oxford University Press, 1989

3. 研究の方法

本研究の研究方法の基盤は基礎資料の検討という日本文学研究の基本的研究手法を

中心に、デジタル技術と IT 技術を用いつつ、日・中・英の 3 つの語圏を横断的にリサーチし、成果を目指す。コレクションとはその人の獲得した「知」の集合であり、ロックハートコレクションの成立を解明するためには、コレクションの中身を特定する必要がある。資料を特定してから閲覧と同時にデジタルアーカイブを適宜に作成し、蓄積した資料をデータベース化し、比較検討を容易にする。そして、同時に 3 つの語圏の文献を収集し、ロックハートという人物の生涯、幕末明治期の極東の情勢等を踏まえ、再びコレクションの成立とその人物像に立ち戻り、研究目的を達成する。

なお、補助事業期間中を通し、主な研究方法は以下になっている。

(1) コレクションの特定：ケンブリッジ大学図書館所蔵和漢古典籍の目録は既に刊行されている。研究開始時はまず既刊目録からコレクション該当の書目を特定する。

(2) 出版記録と照合：和刻本漢籍は名前の通り、日本（和）で出版（版を刻む）された漢籍のことであり、つまりその覆刻や出版には底本として参照したものがあつた。その際は宋・元の刊本や古抄本が用いられることが多い。ロックハートコレクションの収蔵書と日本の和刻本漢籍の出版目録とを比較し、該当書物がどの程度発行されたかを把握する。

(3) デジタルアーカイブの構築：所蔵先機関の関係者より撮影する場所等を確保してもらい、資料撮影も許可された。代表者の所属先である立命館大学アート・リサーチセンターは日本国内では屈指のデジタルアーカイブの機能を有する機関である。そのため、古典籍資料等の扱い方やデジタルアーカイブの際の注意点等も熟知しており、アーカイブの構築に必要な条件は揃っている。

(4) 日本国内関連文献の収集：和刻本漢籍の出版記録のみならず、幕末明治期の東アジアの物的人的移動を裏付ける資料を収集することは、この時期の和刻本漢籍の流出を推察するために必要不可欠である。同時期に刊行された統計や貿易記録、外交資料、個人の手記や日記の類は、歴史考証を行うために有益な資料が多い。

(5) 国内外蔵書との比較：ロックハートコレクションの蔵書は、既刊目録を参考にすればある程度把握できる。しかし、どれほど発行・流通していたかという疑問については解明できない。そのため、日本国内外研究機関の蔵書との照合を必要とする。中国大陸は勿論、臺灣、香港の大学等の研究施設は近年和刻本漢籍を含む、中国大陸以外の漢籍（「域外漢籍」）をまとめた目録を刊行している。さらに、国外の場合はオンラインカタログ等の電子リソースを活用し、適宜にフィールドワークや現地調査を実施する。

(6) 英文参考文献の収集：本研究の特色の一つとしては日・中・英の 3 つの語圏を横断していることである、またロックハート自身も

学者であり、彼の論文や著書を含め、その周辺を把握することによって、彼自身の知識はどこから獲得したのかについて知ることができる。

(7) 書簡記録との照合：ロックハート個人宛の信書や書簡等は、現在スコットランド国立図書館（National Library of Scotland）に収蔵されている。オンラインカタログが公開されており、その中から彼が香港と威海衛赴任中の時期に絞り、書簡等の記録を適宜に参照する。

(8) 成果の発信：研究成果の発信については従来の学会発表と論文投稿に加え、より研究成果のアクセスのしやすさを求め、ウェブ公開も進めた。この場合は研究対象所蔵機関のケンブリッジ大学図書館は既に公式のケンブリッジデジタルライブラリーがあるため、そこからの画像とメタデータの公開も開始した。

4. 研究成果

本研究の目的と計画とを照らし合わせ、研究を進めてきたが、いくつかの新たなブレイクスルーがあつた。

まず、本研究対象の成立経緯だが、実は二度にわたって購入されたことが明らかになった。既刊目録にあるロックハート旧蔵と明記された書目に当たってみると図書館の受け入れた印記には「1948」年となつていた。一方、目録内では「1937」年としている。どちらが誤っているわけでもなく、実はそれぞれの年にロックハート旧蔵書の一部を購入しており、図書館の記録と実物を照合した際に混同した事が明らかになった。つまり、1938 年に購入した分のロックハート旧蔵書を 1937 年の記録にあるものと誤認した訳である。これを踏まえ、当初の研究計画通りに、1937 年に購入した分の資料を重点的に特定し、デジタルアーカイブを作成することとした。二度目の購入に関しては今後の課題の展開にしたい。なお、これらの最新の情報も画像のメタデータとして付与し、ケンブリッジデジタルライブラリーで公開した（〔その他〕ホームページ等を参照）。

次に二度に渡って解体されたロックハート旧蔵書はそれぞれの購入年の購入先を判明できた。ロックハート生前の書簡の類は現在スコットランド国立図書館に移管されており、その中からロックハート没後に遺族等とケンブリッジ大学側との書簡を発見できた。ケンブリッジ大学三代目の漢学教授であるアーサー・クリストファー・モール（Arthur Christopher Moule, 1873-1957）とロックハートの未亡人であるエディス・ロックハート（Edith Stewart Lockhart）との間の往来である。ロックハート没後に彼の旧蔵書の売買についての詳細が書かれている。それによると 1937 年の一度目の購入の際に大英博物館図書館（British Museum Library）パーシバル・デビッド卿（Sir Percival

David, 1892-1964) とケンブリッジ大学図書館 (Cambridge University Library) の三者が蔵書のもっとも優れた部分を買収したと書かれている。残りの蔵書は遺族のもとで管理され、1948年に再びケンブリッジ大学図書館に買収されたのである。

そして、この1948年の購入に関して、イギリス国内では歴史的背景があった。第二次世界大戦は1945年で一応の終焉を迎える。それ以降、イギリス国内ではアジア研究を推進する動きが顕著になる。既に1944年にイギリス国内でアジア・アフリカの研究推進状況を調査する小委員会が立ち上げられ、1947年にその委員会が政府に対して勧告という形で報告書を出した。その報告書は委員長の名前である第十一世スカーバラ卿 (Lawrence Roger Lumley, 11th Earl of Scarbrough, 1896-1969) の名前にちなんで、一般的にスカーバラレポート (The Scarbrough Report) と呼ばれている。主な趣旨として、第二次世界大戦中にアジア諸国の存在 (特に中国と日本) は世界中に知れ渡った。一方、イギリスはアジア諸国との対戦中に相手に対する予備知識 (言語・文化) の不足を痛感した。これから来る戦争に備え、英国内ではアジア諸国に関する研究を助成する方針を固めた。翌年1948年に英国内各大学の図書館に対し、アジア・アフリカ研究用資料の購入資金を特別予算として用意した。それがロックハートコレクションの二度目の資料の購入に繋がったのである。

更に、スコットランド国立図書館に移管されたロックハート書簡の中からはロックハート自筆の蔵書目録を発見した。同館に「ステュワード・ロックハート資料 (Stewart Lockhart Papers)」と呼ばれる一群の資料があり、その中にはインデックスカードを納めた木製の箱がある。その中身はロックハート自筆の旧蔵書目録であり、自身の蔵書のタイトルごとに作成したカードがある。カードの総数は計1200枚を超えており、一枚ごとに書物の書名・出版社・刊行年等の情報を英語と中国語のバイリンガルで記している。研究開始当初はこのような資料の発見を予見しておらず、研究終了時までは該当資料を活用できていない。しかし、本資料の出現によりロックハート旧蔵書の全貌について知ることができ、蔵書全体の動向を追うことが可能になるため、今後の研究の展開に期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

李 増先、ロックハートコレクションの行方：ケンブリッジ大学図書館までの道のり、2016年度日本比較文化学会国際学術大会発表抄録、査読有、No. 34、pp. 61

〔学会発表〕(計 7 件)

李 増先、ケンブリッジ大学図書館の和漢古典籍：林&コーニッキー目録の再考、立命

館大学日本文学会・第149回研究例会、2016年12月11日、立命館大学 (京都府京都市)
李 増先、ロックハートコレクションの謎：林&コーニッキー目録の再検討、日本比較文化学会関西支部会、2016年10月1日、同志社大学 (京都府京都市)

Zengxian Li, New Facts about Lockhart Collection, the 27th ARC Seminar, 2016年4月27日、立命館大学 (京都府京都市)

李 増先、極東の視座からの和刻本漢籍画像データベースの構想、第5回知識・芸術・文化情報学研究会、2016年2月6日、立命館大学梅田キャンパス (大阪府大阪市)

李 増先、ロックハートコレクションの研究意義、第25回ARCセミナー、2015年12月9日、立命館大学 (京都府京都市)

李 増先、ケンブリッジ大学図書館の和刻本漢籍、日本比較文化学会関西支部会、2015年10月31日、同志社大学 (京都府京都市)

李 増先、ロックハートコレクションのカタロギング、2015年10月ライスボールセミナー、2015年10月20日、立命館大学 (京都府京都市)

〔その他〕

ホームページ等

ケンブリッジ大学図書館蔵古典籍閲覧システム

http://www.dh-jac.net/db1/books/search_cambridge.php (要ID&パスワード)

『標箋孔子家語』の解説

<https://cudl.lib.cam.ac.uk/view/PR-FB-00769-00001>

『杜工部集』の解説

<http://cudl.lib.cam.ac.uk/view/PR-FB-00563-00026-00028>

『夜船閑話』解説の英訳

<http://cudl.lib.cam.ac.uk/view/PR-FA-00858-00020>

『雨夜物語だみことば』解説の英訳

<http://cudl.lib.cam.ac.uk/view/PR-FJ-00737-00007>

『心経注解』解説の英訳

<http://cudl.lib.cam.ac.uk/view/PR-FG-00710-00108>

『宇津保物語』解説の英訳

<http://cudl.lib.cam.ac.uk/view/PR-FJ-00733-00009>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

李 増先 (LI, Zengxian)

立命館大学・衣笠総合研究機構・研究員

研究者番号：90755498